
海

赤峰智子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
海

【コード】
N4130D

【作者名】
赤峰智子

【あらすじ】
詩＋字数が足りなかったので、番外編的な短文。

(前書き)

COALTAR OF THE DEEPERS
【see】のために。

鉛色の寒空の下 海は濁流の如く暴れ狂う
冷え切った足先に伝わるのは 重く、詰まった砂の泣き声

君に似せた泥人形を そつと正面に立ててみる
君の後ろには 濃度の違う灰色の世界
白い水泡みなわが 生まれては潰れ、生まれては殺され

「一緒に居て」と囁いたその口が 開かれるのをもう見る事は無い
強く掴んだ土色の肩が 小さく崩れ、ぼろぼろと落ちていく

濁流が僕等を飲み込まんと 緩やかに押し寄せる
「追いかけるさ」と囁いたこの僕は
まだ死ねてない

目を閉じて 広がる暗闇に色鮮やかな君を描く
描いたそばからすぐに風化して

二つの眼窩は黒く塗り潰されている

冷えた泥の君の手が僕の首を掴んで

ああ、その笑顔はとても美しい。

波音が頭を突き刺して　そしてゆっくり空へ消えていく
「一緒に居て」と縋る君を　目茶苦茶に、粉々に崩した

詰まった砂の上に　柔らかく黒色の君が広がる
僕は頭を掻き毟り　この寒空に崩れ落ちた
「確かに愛していたさ」

濁流は彼女を遠く沖へ運んでいく
僕はただ泣き叫ぶ

新たに生まれた白い水泡みなわが頭を濡らし　僕をも誘わんとする
灰色に溶けていく彼女の残りと共に　その場に静かに横たわった

迫り来る灰色の世界は　仄かに彼女の匂いがした

.....

水色の傘が、
風に飛ばされ空へ溶けた。

長い黒髪が風に靡き、
君はばつが悪そうに笑う。

君が雨でぼやけていく。

僕はそれを眺めていた。

ただ、それを眺めていた。

(後書き)

お読み戴きありがとうございます。初めてなので、あまり勝手が解らなくてすみません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4130d/>

海

2010年12月14日19時35分発行